

西都市埋蔵文化財発掘調査報告書 第4集

# 松 本 遺 跡

昭和62年度三納地区県営圃場整備事業に  
伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告

1988年3月

宮崎県・西都市教育委員会

## 序

本報告書は、昭和62年度三納地区県営圃場整備事業に伴い、工区内に前方後円松本塚古墳を含む3基の古墳が所在するため、宮崎県児湯農林振興局の委託を受けるとともに、文化庁及び宮崎県の補助を受けて実施した発掘調査の概要報告であります。

調査の結果、25号墳からは、形象埴輪片が出土し、葺石もわずかではありますが築造期の整然とした状態で検出されました。また、松本塚古墳については、造出しが片側のみで方形状を呈していることか判明したこと等に加え、今まで不明な点が多かった周庭帯についてもある程度明確にすることことができました。

これらの成果をまとめた本書が、文化財の保護・保存に活用され、また社会教育や学校教育に広く活用していただければ幸いと存じます。

最後に、調査が無事終了しましたことは、県児湯農林振興局・三納川筋土地改良区・地元地権者・基盤整備請負業者等のご協力と、西都原古墳研究所顧問齊藤忠先生及び、県文化課担当職員のご指導とご協力によるもので、ここに衷心から敬意と謝意を表します。

昭和63年3月30日

西都市教育委員会

教育長 篠 原 利 信

## 例 言

1. 本書は、三納地区県営圃場整備事業に伴い、昭和62年度に実施した松本遺跡の発掘調査概要報告書である。
2. 発掘調査は、西都市教育委員会が実施し、県文化課の協力もあおいだ。調査関係者は次のとおりである。

調査主体 教育長 篠原利信  
社会教育課長 伊藤政実  
同補佐 緒方吉信  
同主事 養方政幾

調査指導 西都原古墳研究所顧問 齋藤忠  
宮崎県文化課 面高主事ほか

調査員 西都原古墳研究所  
所長 日高正晴  
主事 緒方吉信  
主事 養方政幾  
遺物整理 整理員 関谷恵子

3. 本書に使用した図の作成・執筆・編集は養方が行った。
4. 本書のまとめは日高が行った。
5. 本書の遺物実測は養方が行った。
6. 出土遺物の整理は、関谷恵子があたった。
7. 本調査による出土遺物は、西都市歴史民俗資料館に保存し展示される。

## 本文目次

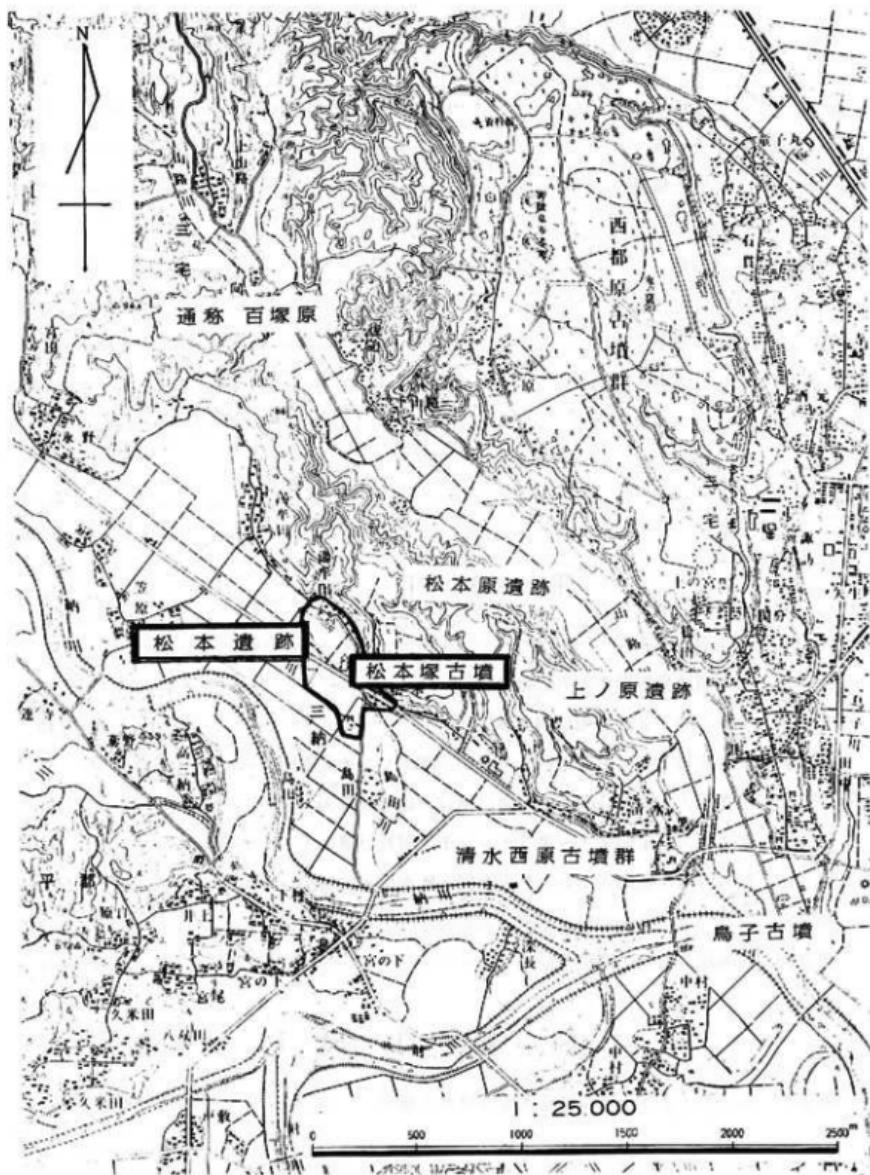
Iはじめに .....	1
1. 調査に至る経緯 .....	1
2. 遺跡の位置と環境 .....	1
II調査の概要 .....	
1. 調査区の設定と概要 .....	4
2. 24号墳の構造と遺物 .....	4
3. 25号墳の構造と遺物 .....	4
4. 松本塚古墳の構造と遺物 .....	5
IIIまとめ .....	15

## 挿図目次

第1図 松本遺跡位置図 .....	
第2図 松本遺跡発掘調査地周辺見取図 .....	3
第3図 24号墳・25号墳構造実測図 .....	10
第4図 25号墳土層図・松本塚古墳西側周囲トレンチ実測図 .....	11
第5図 松本塚古墳周囲発掘調査区及び墳丘・周囲復原図 .....	12
第6図 松本塚古墳東側第1～第3トレンチ土層及び第1トレンチ平面図 .....	13
第7図 松本古墳東側第4トレンチ平面図・断面図・土層図 .....	14
第8図 24号墳・25号墳出土遺物実測図 .....	17
第9図 松本塚古墳出土遺物実測図 .....	18

## 図版目次

図版1 24号・25号墳及び松本塚古墳出土遺物 .....	19
-------------------------------	----



第1図 松本遺跡位置図

# I はじめに

## 1. 調査に至る経緯

三納川沿いの水田地帯では、一部潟牟田湿田地域を除き、昭和53年度着工、同62年度終了の三納地区県営圃場整備事業が実施された。それに伴い、昭和61年度には工区内に、数基の小円墳が所在することから、当教育委員会において発掘調査を実施している。

本年度においては、松本塚古墳を含む3基の古墳が工区内に所在するため、県文化課は県児湯農林振興局と協議を行い、さらには三納川筋土地改良区と当教育委員会も加わって4者で協議を行い、事前調査の具体的な検討に入った。

当初、松本塚古墳部分に道路を巡らす等古墳の保護上好ましくない諸問題もあったが、協議の結果、道路設置場所の変更等、県児湯農林振興局サイドの大規模な計画変更により合意に達し、事業施行上現状保存が困難である部分について事前調査を実施することになった。

なお、県文化課では、協議を重ねる中において、松本塚古墳の墳丘規模・周囲等の確認を行うため、昭和62年1月～同年2月にかけて発掘調査（トレンチ調査）を実施している。その結果、墳丘の全長は104m、周囲幅約18m、盾形の周囲をもち、周囲を含めると全長149mであること等を確認している。

本年度の発掘調査は、西都市が県児湯農林振興局からの調査委託をうけた委託事業、並びに文化庁・県教育委員会の補助事業として西都市教育委員会が実施し、社会教育課内の西都原古墳研究所が担当した。

発掘調査期間は昭和62年7月21日に着手し、同年11月24日に終了した。

## 2. 遺跡の位置と環境

松本遺跡は西都市大字三納字松本に所在し、昭和19年3月に国指定となった松本塚古墳を中心に、昭和19年12月・県指定の三納古墳群中6基の古墳（前方後円墳1・円墳5）を含めた地域で、西都の市街地西南約2.5km、三納川流域に開かれた水田地帯に位置する。

地形的には、九州山地から西都平野に向って、標高50m程の岬様台地が幾条にも延びているが、その中の松本原遺跡、上ノ原遺跡及び通称「百塚原」と呼ばれている円墳38基の所在する台地の南側に広がる三納平野東部に位置する。なお、この百塚原は、松

・本塚古墳から北北西 1.5 km の地点で、大正時代には、現在国宝に指定されている金銅製の馬具類が出土した所である。

また、松本塚古墳から北北東 2.2 km 、百塚原からは西方 1.5 km の地点には特別史跡・西都原古墳群が所在し、この 3 地点を結ぶと三角形状になる。

三納平野には、三納川が大きく蛇行しながら中央部を東流しているが、この三納川は中村地区の北西部で三財川と合流し、西都市の南東端に位置する現王島近くで、一ツ瀬川と合流する。

西都市内には、現在 650 基程の古墳が点在している。そのほとんどが洪積層台地上に所在しているが、三納川と三財川が合流する地点より北東約 1 km に所在する鳥子古墳 3 基（前方後円墳）と松本塚古墳を含めた 7 基の古墳だけは、他古墳とは異って沖積層の水田地帯に築造されている。そういう意味からも、松本遺跡内の古墳は貴重な古墳ということができる。

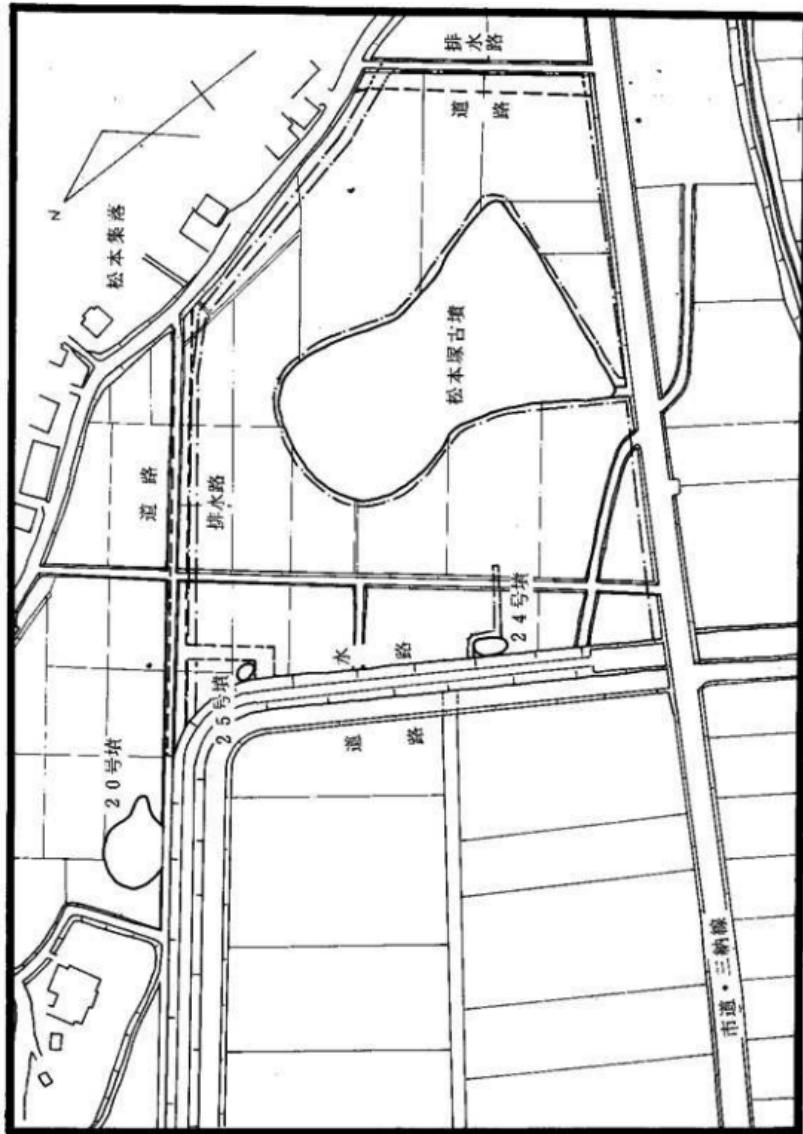


松本遺跡の近景（中央松本塚古墳）

このように松本遺跡は、ほとんどが水田耕作地帯であるが、この水田地帯は昭和 52 年度着工の基盤整備事業以前に、すでに土地改良事業が行われている。それは、大正 5 年及び同 10 年に行われた 150 町にも及ぶ水田の改良事業や三納川護岸制水工事である。しかし、大半が未整理の状態で、農道も狭小になってきたため、昭和 53 年度より同 62 年度まで 429 町にも及ぶ土地改良事業が実施されることになったのである。

第2図 松本道路発掘調査地周辺見取図

—新排水路線  
- - - - - ~新排水路線  
0 50m



## II 調査の概要

### 1. 調査区の設定と概要

調査の対象となったのは、松本塚古墳周囲及び三納古墳第24号・第25号の東側で、昭和16年度発掘調査区の東隣りである。

調査は、まず24号墳・25号墳の東側より始めることになり、古墳サイドにトレントを入れ、追構・遺物の確認を行い、その結果をもとに、重機により表土（耕作土）を剥ぎ本格的な調査に入った。

次に、松本塚古墳を中心にして東西に分け、西側の後円部に周陥規模等確認のトレント及び、くびれ部に造出しの形状確認のためのトレントを入れた。

東側については、後円部・周庭帯等に第1～第8のトレントを設定し調査を行った。この中で、第1～第3トレント部分については、トレント内に埴輪列が検出され、その埴輪列が残っている1段高い部分が、本年度の圃場整備によって削平されたため、この部分については全面調査となった。

調査の結果、24号墳については、調査区が限られて、遺物も昨年程は出土しなかつたが、周溝外縁を確認することができた。

25号墳については、周溝内より繖（さしば）状の形象埴輪片が出土した。また、口縁部は欠損しているものの、肩部以下完全な趣が伏せた形で出土した。

松本塚古墳については、造出しが西側にのみついており、しかもそれが、方形状を呈していること、また、周陥はもちろん、今までに不明な点が多かった周庭帯についてある程度明確にすることことができた。

これらの詳細については、後述するとして、形象埴輪が出土したこと、また周庭帯について明確にできたことは大きな成果である。

### 2. 24号墳の追構と遺物

24号墳は、松本塚古墳の東60m程に位置している小円墳で、現状は東西5.5m、南北7.5m、高さ2.1mであるが、昨年の調査により築造時は墳丘径16m、周溝を含めると21～22mの円墳であったことが確認されている。

今回は排水路設置部分が中心で、そこを含め4ヶ所にトレントを入れた。このトレントは北側より第1～第4トレントとした。

調査の結果、第1トレンチでは基台の広がりは3.3m、第2トレンチでは5.5m、第3トレンチでは6.1m、第4トレンチでは6.0mを示した。周溝は、第1・第2トレンチでは確認できなかったが、第3・第4トレンチで確認することができた。第3トレンチで幅3.8m、深さ0.27m、第4トレンチで幅4.0m、深さ0.39mである。

遺物は各トレンチより散乱して、円筒埴輪片等が出土した。



24号墳遺構検出 (第1トレンチ)

出土遺物は、円筒埴輪片130点、須恵質円筒埴輪片2点、須恵器片2点の計134点である。

なお、24号墳からは、昨年の調査において、周溝西方壁にもたれかかって、脇部の両側はくぼみ、口縁部は欠損しているものの、ほぼ完形の須恵質顔形円筒埴輪が出土し、また周溝南側からは、横に倒れておしつぶされた状態の円筒埴輪が出土している。

### 3. 25号墳の遺構と遺物

25号墳は24号墳の北北東凡そ75m、松本塚古墳からは北西90mの位置にあり、現状は北西に長く長径5.2m、短径3.5mの小円墳である。今回、東側が道路敷きになるということで、全面調査となった。

まずは、東部と北東部にトレンチを入れ、遺構・遺物の確認を行い、その結果によって、重機により表土（耕作土）を剥ぎ、調査を行った。



25号墳遺構検出 (北側より)

表土（耕作土）を20~25cm掘り下げた位置に基台を検出した。広がりは北部で2.7m、南部では2段状になっていたが7.1mを検出し、築造時の墳丘規模は直径14.4mの円墳であったことを示した。

また、本墳も24号墳と同様、周溝を巡らし、葺石を配している。周溝に

については、昨年調査した西側と同様、東側でも北部から東部にかけてしか残っておらず南部では確認できなかった。北部で周溝幅 2.9m、深さ 0.36m である。

葺石については、北部で 6 段はあるが、整然と積み上げた状態で確認できた。その葺石は古墳に向ってつきさした状態で積み上げており、いちばん下の方に大きな石を配し、その間及び上段を拳大の石で積み重ねている。南部については、葺石が周溝に流れ込んだ状態で検出されたが、この流れ込みの葺石を取り除いた結果、その下の方から 2~3 段とわずかではあるが築造時積み上げた葺石が検出された。このことによって、25 号墳の規模等について明確にすることができた。

遺物は、周溝内はもちろん周溝外にも無数に散乱していた。その中のほとんどが円筒埴輪片と思われるが、中には県内においても類例がない翳（さしば）状の形象埴輪片も含まれていた。翳状の形象埴輪は周溝内より数点まとめて出土した。

また、口縁部は欠損しているものの、肩部以外は完全な甕（須恵器）が、周溝南部より伏せた状態で出土した。

出土遺物は、円筒埴輪片 530 点、形象埴輪片 40 点、須恵器円筒埴輪片

40 点、須恵器片 13 点の計 623 点である。

#### 4. 松本塚古墳の遺構と遺物

松本塚古墳周囲の調査は、調査区域が広いため、一応西側と東側に分けて調査を実施した。

##### 1) 西側

西側は、後円部に周隙規模等確認のトレンチ、くびれ部に造出しの形状確認のトレンチを入れた。

後円部のトレンチは、周隙が深く、また、土が柔かく調査は難航したが、無事最後まで調査す



松本塚古墳西側周隙トレンチ遺構検出

ることができた。結果は、周囲の幅23.5m、深さ1.75m（中央部）で、下層には凸レンズ状に、いちばん厚いところで1m程も木葉・木片が多量に体積したグライ層があること等を確認した。

遺物は、周囲内からはほとんど出土しなかったが、周囲外縁より須恵質の朝顔形円筒埴輪片がわりとまとまって出土した。



松木塚古墳西側造出し検出

くびれ部造出しの現状は、半円状にわずかに残っている程度であるが、調査の結果、前方部側が広めの方形状（隅丸）を呈していることを確認した。前方部側幅9m、後円部側幅4m、長さ22mで、現在の造出しがらすると西方に5.2mも広がることになる。

西側の出土遺物をまとめてみると、円筒埴輪片900点、須恵質円筒埴

輪片16点、須恵器片6点の計922点である。

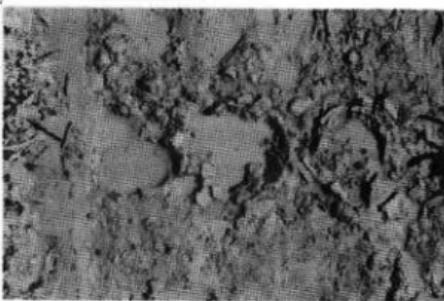
## 2) 東側

東側は、周庭帯のいちばん保存状態のよい部分に4ヶ所、後円部に1ヶ所、くびれ部に1ヶ所、前方角部に1ヶ所、周囲南東部外縁（道路設置場所）に1ヶ所の計8ヶ所にトレンチを入れた。トレンチは、いちばん北部の第8トレンチを除いて、北側から順次第1～第7トレンチとした。

### a、第1～第3トレンチ

松木塚古墳北東部60m程に、細長い台形状の1段高い水田地があり、ここが周囲外縁推定線上にあることから、周庭帯の一部が残っているのではないかと推定された。よって、ここに3本のトレンチを入れ確認を行った。

その結果、第1・第2トレ



松木塚古墳東側第1トレンチ埴輪列出土状況

ンチ内より埴輪列を検出した。第1・第2トレンチにそれぞれ3個、わずかに底部しか残っていなかったが、接近して1列に並んでいた。このことによって、この一段

と高い部分がいちばん保存状態が良好であることが確認された。ところが、圃場整備によって、この部分が削平されることから全面調査となった。

全面調査の結果、周庭帯には埴輪列は内側（松本古墳側）と外側の2列配されていたこと、周庭幅は約6～7mであること等を確認した。

内側の埴輪列はトレンチ調査で検出されたように接近して配されていたが、大部分がなくなっている。外側の埴輪列には、内側よりも大きめの埴輪を約3.4m間隔で配していた。なお、外側の埴輪も底部のみである。



松本塚古墳東側周庭帯遺構検出

出土遺物は、円筒埴輪片  
340点、須恵質円筒埴輪片

21点、須恵器片1点の計362点で、周庭帯全面に散乱していた。

b、第4トレンチ

第4トレンチは後円部に設定した埴丘規模確認のトレンチで、基台の広がりは3.9mである。

出土遺物は、円筒埴輪片40点、須恵質円筒埴輪片15点の計55点である。

c、第5トレンチ

第5トレンチは、くびれ部に造出しがあるかどうかの確認トレンチである。調査の結果、松本塚古墳東側には造出しはないことが確認された。基台の広がりは、くびれ部で1.8mである。

出土遺物は、円筒埴輪片400点、須恵質円筒埴輪片63点の計463点である。

d、第6トレンチ

第6トレンチは、前方角部の基台の広がりを確認するためのトレンチである。調査の結果、基台は現在の前方部角より5.7mの広がりを示したが、耕作等により、基台部分が削平されており、明確には確認できなかった。

e、第7トレンチ

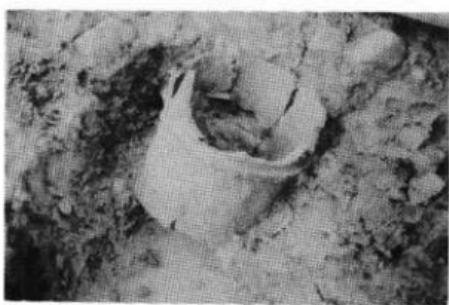
第7トレンチは、周陥外縁南東部に道路が設置されるということで入れたトレンチである。なお、この部分は、県文化課の発掘調査によって別の古墳が存在すると推定されていた地点もある。

調査の結果、松本塚古墳周陥南東部外縁及び周陥南東部外縁の角部分を確認でき

た。また、県のトレンチ調査によって、円筒埴輪片と葺石が集中して検出されたため別古墳ではないかと推定された地点については、松本塚古墳周縁外縁の一部分であることが確認された。ちょうど、県文化課が入れたトレンチを中心として、幅約3m、西方に向って葺石が集中していた。



松本塚古墳東側第7トレンチ遺構検出  
(周縁南東部外縁の角部分)



松本塚古墳東側第7トレンチ  
須恵質円筒埴輪出土状況

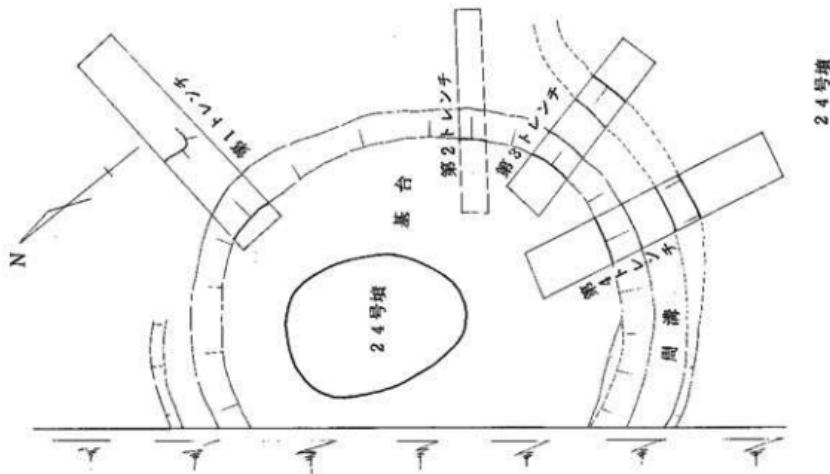
遺物は、須恵質円筒埴輪の下半分がやや傾いてはいるものの立った状態で、また、この須恵質円筒埴輪の東3.5mには、周庭帶外側に配されたと推定される円筒埴輪が立った状態で出土した。須恵質円筒埴輪は胴部から底部にかけて、円筒埴輪は底部のみで、葺石が集中している場所からである。その他の破片についてもほとんどがこの葺石が集中しているところから出土した。

出土遺物は円筒埴輪片380点、須恵質円筒埴輪片30点、磁器片3点の計413点である。

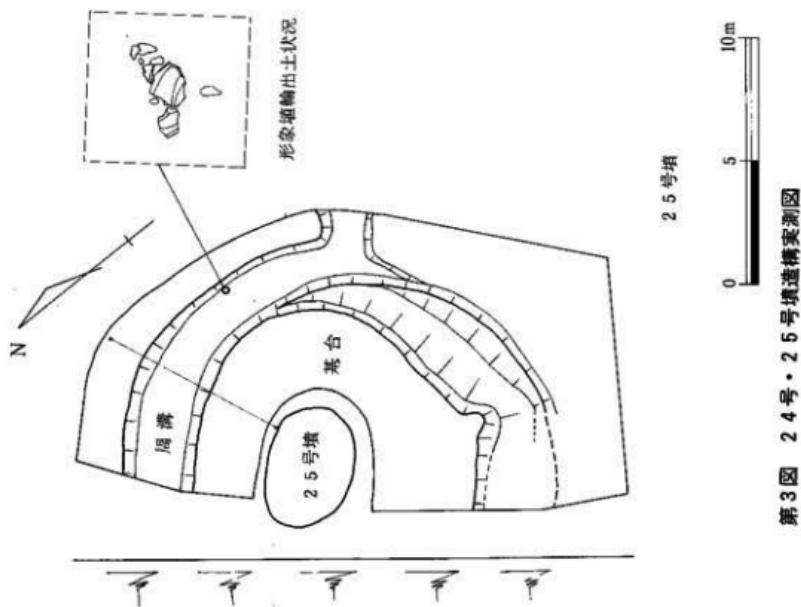
#### f、第8トレンチ

第8トレンチは、第1トレンチの北22mに入れた周庭帶の外縁確認のためのトレンチであるが、調査の結果、外縁を確認することができた。

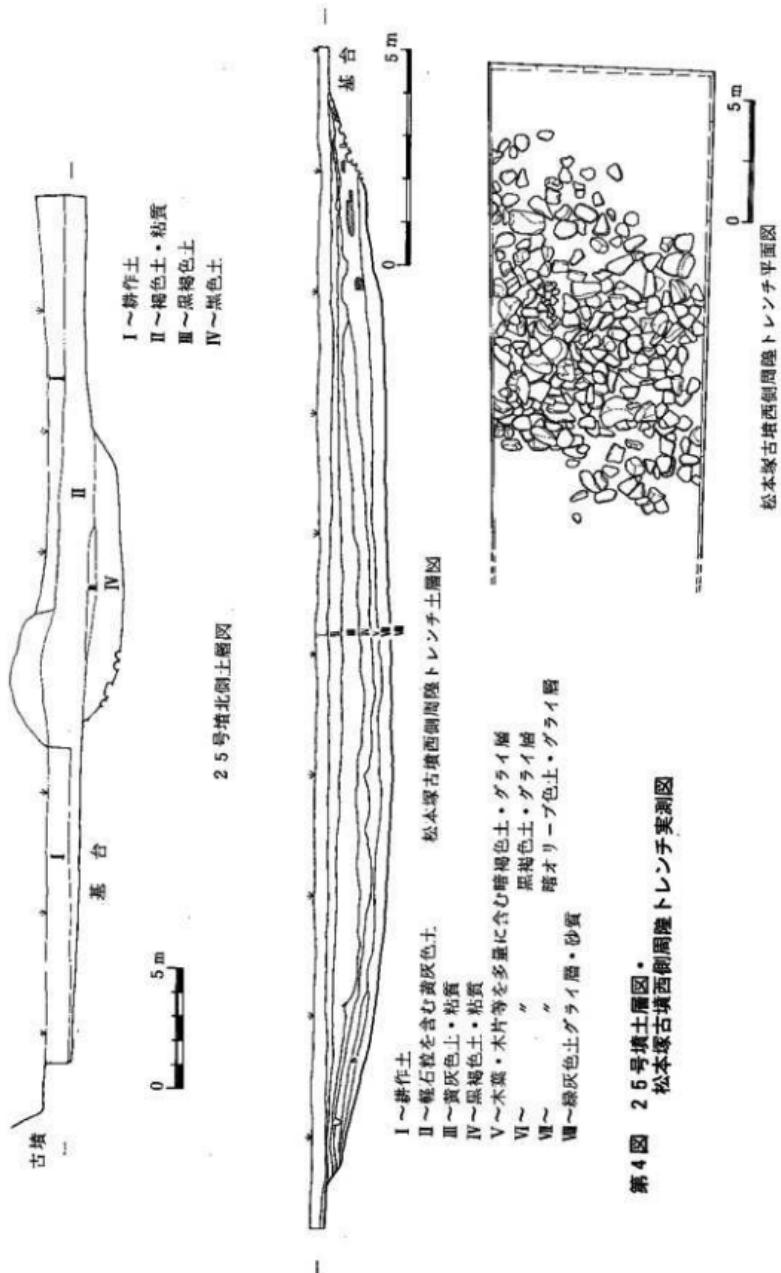
遺物は出土しなかった。

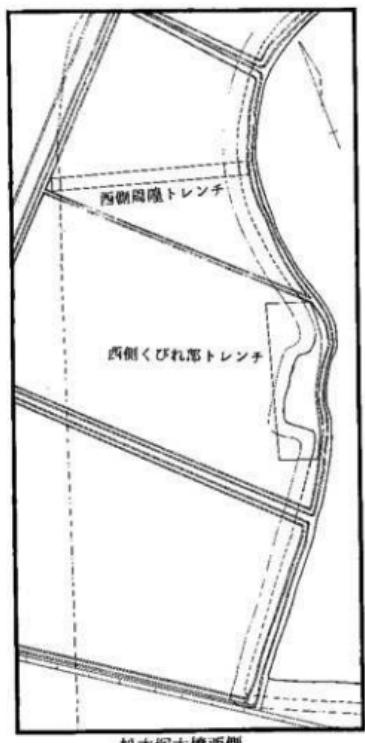


24号墳



第3図 24号・25号墳遺構実測図

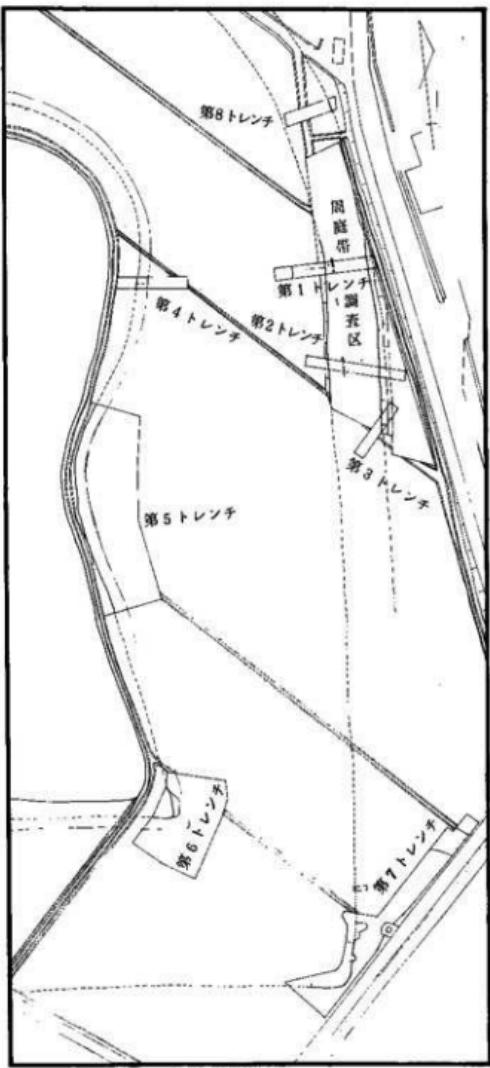




松本塚古墳西側

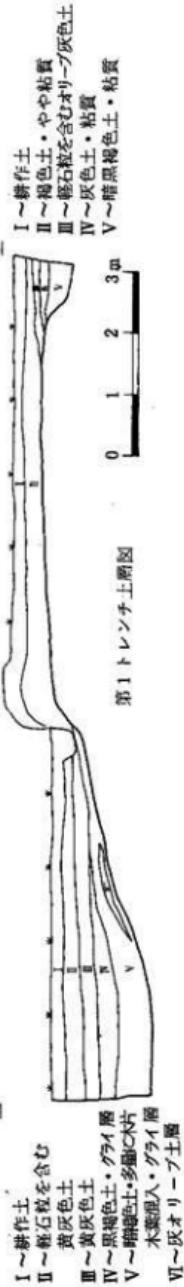
0 10 20 30m

- 基台推定線 (Terrace Estimated Line)
- 〃 周縁外縁推定線 (Outer Edge Estimated Line)
- 脊右推定線 (Spine Right Estimated Line)

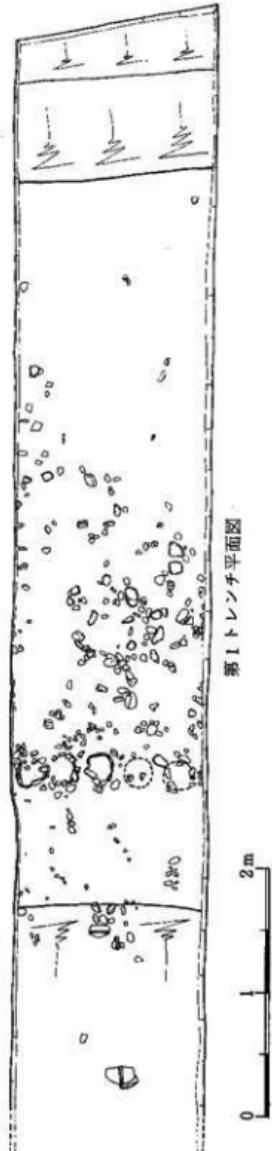


松本塚古墳東側

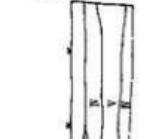
第5図 松本塚古墳周囲発掘調査区及び境丘・周縁復原図



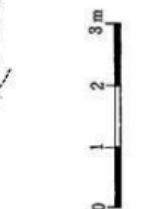
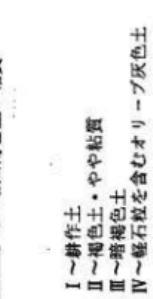
第1トレンチ土層図



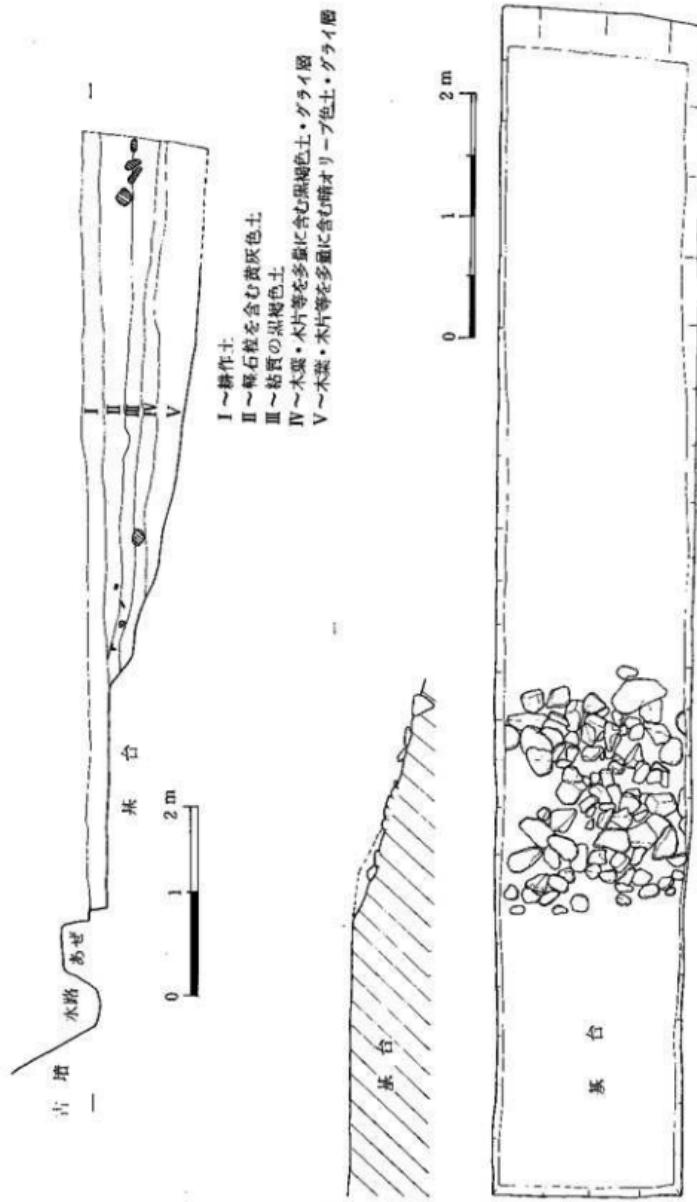
第1トレンチ平面図



第2トレンチ平面図



第6図 松本塚古墳東側第1～第3トレンチ土層図及び第1トレンチ平面図



第7図 松本塚古墳東側第4トレンチ平面図・断面図・土層図

### III まとめ

日高正晴

昨年度は三納川筋の上地改良事業施工に先立つ事前調査として、松本塚古墳西側の24号墳、25号墳、20号墳および21号墳周辺の発掘調査を行ったが、本年度は前年に引き続き松本塚古墳周辺において第2次の発掘調査を進めた。まず、25号墳の東側の調査を行ったが、この古墳は前年度の確認調査において円形基台が現われ、その裾部に葺石、そして台上には全面に円筒埴輪片が散乱していた。本年の調査においては東側円形基台の裾部に沿って葺石の配列が認められ、しかもこの古墳をめぐる周溝も約2.9mの幅をもっていることも確認することができた。次いで、松本塚古墳埴丘裾部の調査を行い、現墳丘と築造当時の裾部との差異についても比較検討することができた。特に、松本塚古墳西側にトレーナーを入れ、その古墳に伴う周溝の全面的調査を行い、土壌堆積の層位的解明まで行ったことは松本塚古墳築造について関連資料を提供したことになる。それから、松本塚古墳東側の一段高い水田を調査した結果、幅約6~7m、長さ約30数mにわたり周庭帯が遺存していることが確認できた。そして、興味深いことはこの周庭帯上に大小2列に円筒埴輪が埋納してあったことである。このように稀少価値のある周庭帯の一部分が現われ、しかもそこに円筒埴輪が部分的でも認められたことは注目すべきことである。さて、以上の調査結果からみた松本塚古墳の築造年代について推測を試みてみたいと思う。昨年度の調査において、24号・25号・20号の各古墳から出土した赤褐色円筒埴輪の外面調整は、主としてタテハケとなっていたが、突起部のタガは台形状を呈していた。そして今年度も25号墳の東側ならびに松本塚古墳の周溝両側、また、周庭帯部分において出土した円筒埴輪にも、ほとんど外面調整はタテハケとなっていた。しかし、松本塚古墳、西側周溝の外縁部から出土した赤褐色朝顔形円筒埴輪には1次タテハケ、2次ヨコハケの外面調整が施され、また、昨年度24号墳の周溝内から出土した須恵質の変形朝顔形円筒埴輪にも1次タテハケ、2次ヨコハケの外面調整が認められた。なお、62年度に県教育委員会が確認調査を行った前方部の周溝外縁部からも1次タテハケ、2次ヨコハケの円筒埴輪が出土している。

それで、円筒埴輪からの年代考察をすると、川西宏幸氏の編年ではV期の時期に比定されそうであるが、前時期の形式を踏襲している変形須恵質朝顔形円筒埴輪および2次調整施行の円筒埴輪などの存在などからIV期からV期へ移行する過渡期の時期に推定したい。そして年代的には5C末葉頃にあてたいと思う。そのような考察にたてば、松本塚古墳の

築造の時期もその頃に想定してよいと考えられるが、築造時期については、さらに墳丘の形態、および造出部の形式その他から総合的な考察を行わねばならないのであるが、そのことについては後刊する調査報告書の中で論述してみようと思う。なお、出土埴輪片の中に形象埴輪も混入していたが、その形態についてはさらに検討を加えてみたい。

## 註

- ① 西都市教育委員会『松本遺跡』

三納地区県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告

西都市埋蔵文化財発掘調査報告書第3集 1987. 3

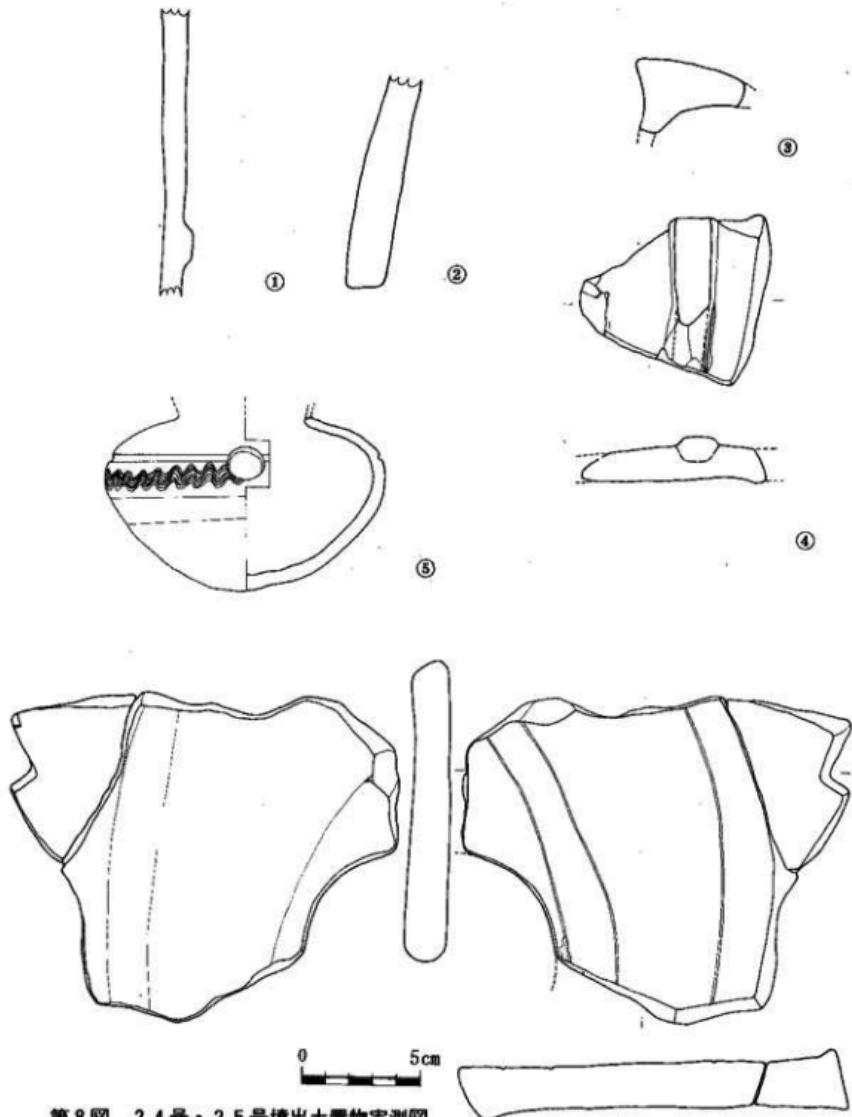
- ② 宮崎県教育委員会『松本遺跡ほか』

昭和61年度農業基盤整備事業に伴う遺跡調査

宮崎県教育委員会 昭和62年3月

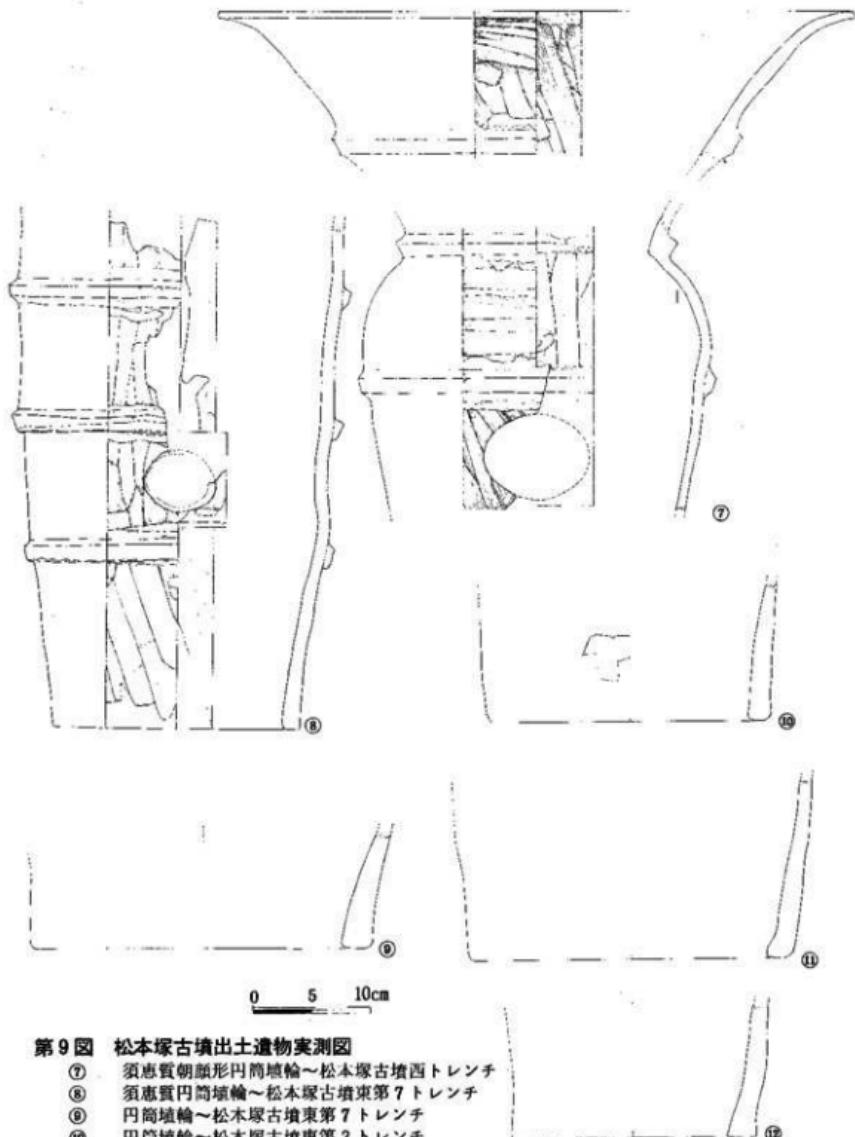
- ③ 川西 宏幸『円筒埴輪総論』『考古学雑誌』

第64巻第2号 昭和58年9月



第8図 24号・25号墳出土置物実測図

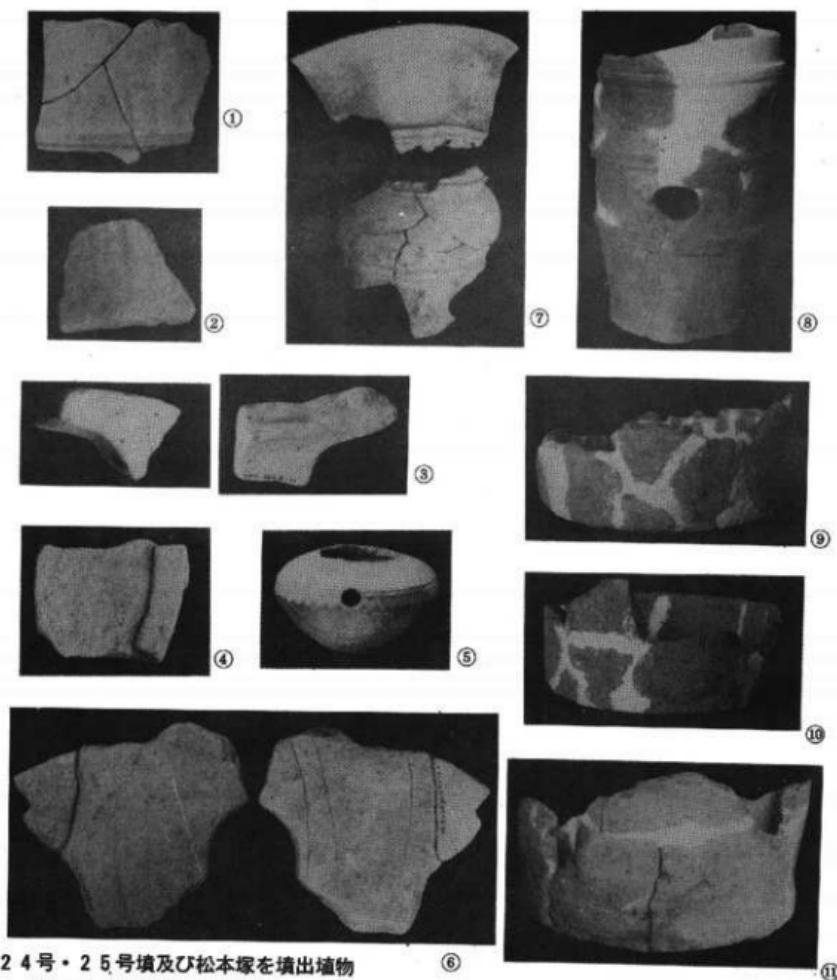
- ①・② 円筒埴輪～24号墳
- ③・④ 形象埴輪～25号墳
- ⑤ 鹿（須恵器）～25号墳
- ⑥ 形象埴輪・獣（さしば）状～25号墳



第9図 松本塚古墳出土遺物実測図

- ⑦ 須恵質朝顔形円筒埴輪～松本塚古墳東第7トレンチ
- ⑧ 須恵質円筒埴輪～松本塚古墳西トレンチ
- ⑨ 円筒埴輪～松本塚古墳東第7トレンチ
- ⑩ 円筒埴輪～松本塚古墳東第2トレンチ
- ⑪⑫ 円筒埴輪～周庭帶

図版 1



24号・25号墳及び松本塚を墳出植物

⑥

①・② 円筒埴輪～24号墳

③・④ 形象埴輪～25号墳

⑤ 駒（須恵器）～25号墳

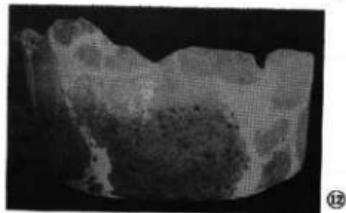
⑥ 形象埴輪～25号墳

⑦ 須恵質朝顔形円筒埴輪・松本塚古墳西

⑧ 須恵質円筒埴輪～松本塚古墳東第7トレンチ

⑨ 円筒埴輪～松本塚古墳東第7トレンチ

⑩～⑫ 円筒埴輪～松本塚古墳東周庭帶



⑫

